

## 2022年度 教育活動等に関する学校評価書

社会福祉法人愛の園福祉会

幼保連携型認定こども園  
幕張海浜こども園

### 1. 教育目標

すべての人は例外なしに「神によって創造された存在である」という理解をもって、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針と定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性(自立性・自立心・自律性)を重んじ、社会性の芽生え(協調性・連帯性・責任意識)を育て、個性が伸びる創造性(興味・集中力・探求心)のある子どもを育成することを目標とする。

#### <基本方針>

- 心の清い正直な人間(良心教育)
- 心の豊かな明るい人間(情操教育)
- からだの丈夫な強い人間(健康教育)
- 動作の機敏な人間(安全教育)

### 2. 本年度の重点課題

1. 前年度実施した学校評価における課題について取り組む。
2. 保育者の資質向上を高めるための話し合いを行ない保育に繋げる。
3. 3歳未満児クラスにおける保育の環境構成と子どもの関わり方について研究を行い、個々の子どもの安定した成長の保障を図る。
4. 3歳以上児クラスにおける保育の環境構成や活動・教材について研究を行い、子どもの発達・学習が促進される保育・就学前教育を計画的に実践する。  
(教材研究、保育準備、記録、次月準備の時間の確保など)
5. 保護者に保育の様子を伝え、情報発信や保護者との連携をはかる。
6. 新型コロナウイルスなどの感染対策を行ないながら保育環境を整え、提供をする。
7. キリスト教保育について、学びを深め実践する。

### 3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価は、S(十分に成果があった)・A(成果があった)・B(少し成果があった)・C(成果がなかった)・E(取り組みが行われていない)で表している。)

評価項目	具体的な取り組み		自己評価		学校関係者評価委員	
			評価結果	こども園としての反省と改善策	評価結果	意見
教育保育方針	1	担任が担当クラスの子どもの発達を理解し、活動計画作成時にカリキュラムや活動のねらいを職員間で話し合い、作成を行ない実践につなげる。	A	年間カリキュラムを基に担任が話し合い、子どもの年齢や発達に促した活動計画の作成と実践を行った。 引き続きの課題は、日々の保育計画を変更した場合に、その理由を明確にし、次月以降の作成に反映させること。 また、保育計画のねらいを担任が意識し、子どもの成長を促す関わりが行なわれているか、定期的な振り返りかえる。	A	今後もカリキュラムにそった保育を提供できるように計画、実践を行なって行くことが大切。 また、クラス担任が共通の理解のもとに保育が進められるようにすることが重要である。
	2	食育活動について、栄養士と保育者が一緒に年間計画を作成し、子どもたちに経験して欲しい活動や学びを提供する。 ※資料1	B	定期的に保育者と栄養士が意見交換を行っているが、食育計画については、栄養士が主導しているため十分な連携が図れなかった。 次年度は食育活動計画を保育者および栄養士連携し計画を立て、継続的にやりたい。	B	こどもからも食育の話があり、楽しんでいる様子が伝わってくる。 今後も計画的に食育活動を取り入れて行けると良いが、栄養士と保育者が連携をし、計画と振り返りを行なって行くことが大切。
特色ある保育の展開	3	経験5年未満の職員(常勤)のキリスト教保育の理解を深める。	B	キャリアアップ研修計画表を基に聖書の学びを進める。 また、リーダー層の職員を中心に会議の場を設け理解を深められるようにする。	B	職員が聖書の学びを深め、保育が行なえるようにさらに学びの場を設け理解することが必要。
	4	0歳から12歳までの子どもを保育する施設として、こども園と学童保育の連携を図る。  ※資料2	S	子ども園や学童保育の様子が各会議の場で伝達された事で、お互いの活動内容の理解が深まり、連携が図りやすくなった。 また、今年度は学童保育のサポートとして保育者が学童保育に入る機会を設けた他、日常から園児と児童の交流を意識的に設けた。	S	0歳から12歳までの一環した保育を受けられることは子どもにとっても良い環境であるため、今後もこども園と学童職員が連携をとり、こどもの成長を見守っていけるようにしていくことが大切。

特色ある保育の展開	5	<p>地域の子育て家庭に園を開放し、遊びに来ることが出来る計画、準備を行う。</p> <p>※資料3</p>	A	<p>コロナ禍により中断していた、地域子育て家庭への施設開放を2022年10月から再開した。掲示板や一時預かりを利用している家庭に周知を行った事により、園に関わりのなかった未就園児保護者の参加が多く見られた。園開放を行ないながら、子育てに関する地域のニーズを発掘し、支援計画が行なえるように検討を重ねる。</p>	A	<p>新型コロナウイルス感染の拡大と核家族化により地域との繋がりも少なくなっている為、園開放は、親子の安心にも繋がっている。また、園開放や一時預かりなどで地域の子どもや保護者との関わりも大切になってきている。必要に応じて外部機関との連携も意識しながら実施していくと良い。</p>
保育環境の充実	6	<p>保育室が「教育的配慮のある環境構成」になるように工夫・改善する。また、子どもが主体的な生活を送れるよう環境作りを行う。</p>	B	<p>クラス内でのミーティングが定着し、環境構成や保育の振り返りの意見交換を行う場が増えた。学年毎の差は見られるが、子どもが主体的な生活が送れるような環境設定が出来るように見直してきた。しかし、今年度はコロナ禍に加え、胃腸炎等の感染対策が求められたため、そのことを強く意識した環境構成であったと感じる。引き続き、定期的に振り返りを行いながら、改善を行っていく必要がある。</p>	A	<p>保育室内も季節に応じた活動や壁面になり、子どもたちが行事に触れられう事は良い環境であると感じる。年間カリキュラムにそって環境構成を変えることは大切な事であるため継続を望む。</p>
保護者との連携	7	<p>日々の保育の様子を保護者に伝えるため、継続的にInstagramやドキュメンテーションを通した情報発信を行う。</p> <p>※資料4</p>	A	<p>Instagramを通して保護者向けに情報発信を行なってきた。継続的な更新が引き続きの課題であるが、職員同士で声を掛けながら継続に向けた働きも心がけている。また、今年度から取り組んでいるドキュメンテーションは保護者への情報発信と保育の質の向上の両面から検討する必要がある。</p>	A	<p>乳児組は連絡帳から毎日の様子を知る事が出来る。幼児組では、連絡よでのやり取りは少なくなるが、Instagramやドキュメンテーションを通して子どもたちの様子を知れることは保護者にとって安心に繋がっている。幼児組では連絡帳でのやり取りが定期的に行なうように伝えているが、相手の気持ちに寄り添った書き方が行なえることが必要。また、直接口頭で伝えるなどコミュニケーションが十分に図れるよう関わりが必要。</p>
	8	<p>降園時や連絡帳などで、保護者の思いを確認し、個々の様子について連携を図る。</p> <p>※資料4</p>	A	<p>今年度はコロナ等の感染対策を行ないながら、誕生参観や個人面談、各行事への参加を行う事が出来た。保育を確認してもらい機会やコミュニケーションを取る機会が増えてきている。定期的な連絡帳でのやり取りや普段の保護者とのコミュニケーションを意識していき保護者との連絡を密にしていきたい。</p>	A	

保育者の資質向上・連携	9	職員の共通理解の元、職員同士が意見交換を行いながら、保育の質の向上を目指して、課題に取り組む。	A	乳児組は職員数が多い中でもミーティングノートを活用しながら子どもの様子の共有と常に保育の振り返りを行っている。 幼児組でもクラス間で日々の保育の振り返りを行う機会を設けている。 今後の課題は、サポート職員と情報共有を行ない、連携を図る。	A	昨年の反省を活かしミーティングや保育準備時間などの時間の各付保に取組んでいる事は良いことである。 今後も職員1人1人が意識をし、保育準備時間や話し合いの時間を設けて行けるようにしていく事が大切。
	10	保育準備時間(保育書類・準備・話し合い)等の時間が作れるよう職員連携を行なう。	A	保育準備時間等の調整について、主幹保育教諭を中心に各クラスで時間の確保を行っている。 また、職員間で声を掛け合いながら時間を確保する動きも見られている。 時間の使い方(効率化)などは引き続き見直す必要がある。	A	
危機管理	11	インシデントやヒヤリハットを基に職員全体に周知を行ない、必要に応じてクラスや園全体で具体的な事故防止について話し合い、事故防止に務める。	B	園児の怪我や事故等があったが、その都度話し合いを行ない、事故原因や保育の見直し、情報共有を行いつつ事故防止に努めてきた。 今後はインシデントの発見や共有を積極的に行う事が課題である。 事故などの要因に保育者との連携不足などがあり、連携の仕方などを見直している。	A	怪我を完全に防ぐことは出来ないがリスクを下げる取り組みは今後も必要。 怪我をした際の対応として、事故の詳細を職員が把握し、保護者に伝え対応を行なっている点は良いことである。 今後も事故原因となり得るヒヤリハットにも目を向けること。
	12	実際の避難を想定し、訓練を実施する。また、訓練の振り返りを行ない、次月の訓練に活かす。	A	毎月の避難訓練、園外への避難を想定した訓練を実施しながら反省や見直しを行い、共有を行ってきた。課題として担任クラスだけでなく他クラスの避難誘導を意識した行動が出来るよう、臨機応変に対応がすることが求められておりこの事を含めた訓練計画をたてる必要がある。	A	毎月の避難訓練の様子が家庭の中でも感じる事がある。 今後も毎月の避難訓練を大切に、実際の避難を想定していくことが重要であると感じる。

**(目的)**

乳幼児の教育・保育活動その他施設運営について目標を設定し、その達成や取組み状況について評価することにより、組織的・継続的な改善を図る。

**(評価)**

自己評価は、幕張海浜こども園の職員(保育教諭、栄養士、調理師、事務員、一時預り専任者等)によって行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取組みの状況について評価を行う。

学校評価関係者による評価は、幕張海浜こども園に在籍する園児の保護者代表と姉妹園の延長ほか、地域住民等が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う。

**(評価時期)**

自己評価	年2回	9月・1月
評価委員による評価	年1回	1月
第三者評価	5年ごとに1回	2011年／2016年／2021年

**(報告)**

学校評価の結果は、保護者および地域住民に公表する。尚、公表時期は、評価を実施した翌月とする。

**(評価委員とその任期)****自己評価者**

1	園長:千葉諭、主幹保育教諭:東里紗、副主幹保育教諭:遠藤逸希、栄養士:田崎萌乃、保育教諭:薮田央穂、看護師:三浦和佳
---	--

**評価委員(2022年度)**

		役 職	氏 名(敬称略)
1	幕張海浜こども園に在籍または卒園した園児保護者	現保護者会 会長 卒園児代表	国橋香苗 松井龍行
2	地域関係者	社会福祉協議会幕張西地区部会 会長	平野悦子
3	姉妹園	社会福祉法人愛の園福祉会 第2幕張海浜保育 園長	福嶋悦子
4	その他園が認めた者		

評価委員の任期は委嘱の日から2年間とし、再任を妨げない。また、任期途中に地域の役職が変更された場合は、後任者と相談の上、引き継ぎを決定する。